

子育て環境アンケート 報告書

2016年12月

(社) 乳幼児子育てサポート協会

【目次】

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
1：アンケートの目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4
2：アンケートの詳細・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4
3：アンケートの集計結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5
◆1：回答者の情報・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5
◆2：現在の子育て環境について・・・・・・・・・・・・・・	7
◆3：子育てのお悩みについて・・・・・・・・・・・・・・	10
◆4：復職について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	17
◆5：行政の子育て支援サービスについて・・・・・・・・・・	20
◆6：民間の子育て支援サービスについて・・・・・・・・・・	23
◆7：お子さんのの習い事について・・・・・・・・・・・・・・	24
◆8：こんな子育て支援サービスがあったらいいな、と感じるもの	27
◆9：2歳以上のお子さんの子育てについて・・・・・・・・	28
◆10：(社)乳幼児子育てサポート協会の認定教室について	29
3：アンケートの考察・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	31
4：アンケートのまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	33

【はじめに】

現在、子育ての情報がスマホやインターネットで簡単にすぐに手に入りますし、おむつの交換台や子ども用のトイレの整備も進んでいます。

そのためか、

「今のママ達は、やりたいことをやって、行きたいところに行って、恵まれてるよね。」

という声が聞こえてきますが…。

本当に今、子育てをしているママ達は、恵まれているのでしょうか？

確かに、現代の子育て中のママは、ママ同士が SNS で繋がっていたり、また、地域の子育て支援施設が充実し始めたりしているので、一見「子育てしやすい環境」のようにも見えるのかもしれませんが。

しかし、子育て世代のパパは働き盛りで、ほとんど家にいないご家庭も多いのが現状です。

- ・家には、子どもと二人っきりで、1日、大人と会話をしなかった。
- ・同じような月齢のママと知りあいたくても、どこに出かけたらいいいのか、わからない。
- ・子育ての情報が多すぎて、何が本当か分からなくて、迷ってしまう。

こんな風に、一人家の中で悩み、迷い、それでもなんとか頑張っているママ達がたくさんいらっしゃいます。

今日では、頑張りすぎて、精神的に苦しくなっても、「母親なんだから、家事も子育ても一人で頑張るのが当たり前」と、頑張り続け、産後うつになってしまうママが、7人に1人もいます。

データによっては、産後うつになる女性は5人に1人とも言われています。

産後うつは、ただ単に「うつ状態の患者が増える」というだけではなく、産後うつを経験した女性が、第二子・第三子を諦める（つまり、少子化につながる）復職を諦める（つまり、女性活躍が妨げられる）など、産後うつから派生した社会問題を引き起こしています。

【1：アンケートの目的】

当法人は、はじめに書いた社会情勢を元に、産後うつゼロの実現を目指して活動しています。

活動をしていく中で、産後うつになる、もしくは、なりかける、子育てが辛いと感じる女性の多くが、

- ・孤独に子育てをしている（夫がいても、仕事などで子育てに関わる時間が少ない、実家が遠いなど）
- ・子育てに関する情報が多すぎて、悩んだり迷ったりしてしまう

ということが分かってきました。

当協会では産後の女性が、本当に必要とする子育て支援サービスを提供するためには、特に

- 1：産後の女性が、必要とする相談相手について
- 2：男性が子育てに関わる時間について
- 3：2歳（イヤイヤ期）の子育てについて
- 4：行政の子育て支援サービスについて
- 5：復職について

の5点の分析が必要と考えております。

そこで、本子育て環境アンケートは、特に上記の5点について分析し、産後の女性にとって、本当に必要な子育て支援サービスを明らかにすることを目的としました。

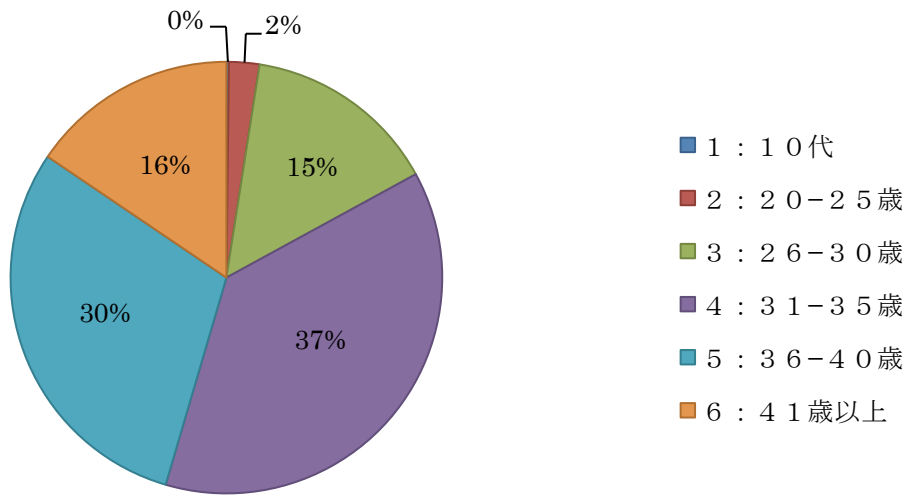
【2：アンケートの詳細】

- ・調査期間 2016年3月1日～4月10日
- ・調査対象 中学生未満の子どもを持つ女性
- ・配布数 847部
- ・回答数 553部
- ・回収率 65.2%
- ・調査方法 アンケート用紙を配布、記入後、郵送にて回収

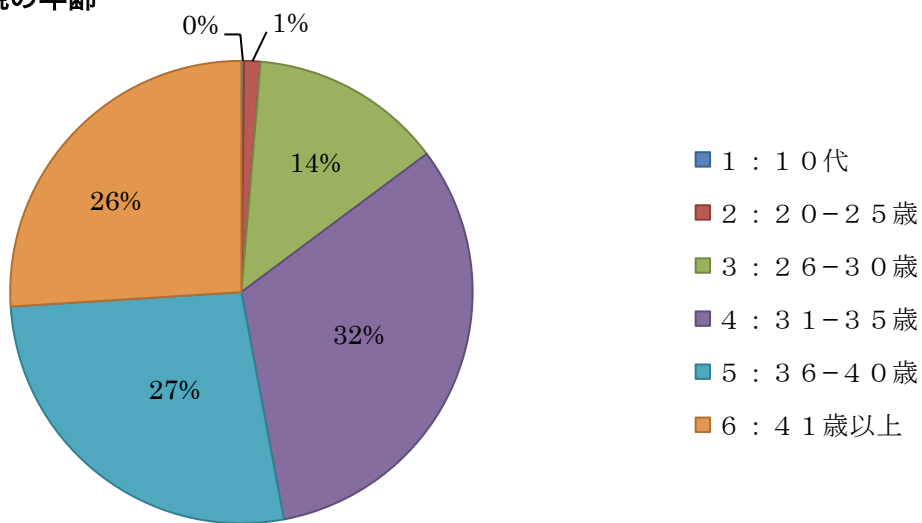
【3：アンケート集計結果】

◆1：回答者の情報

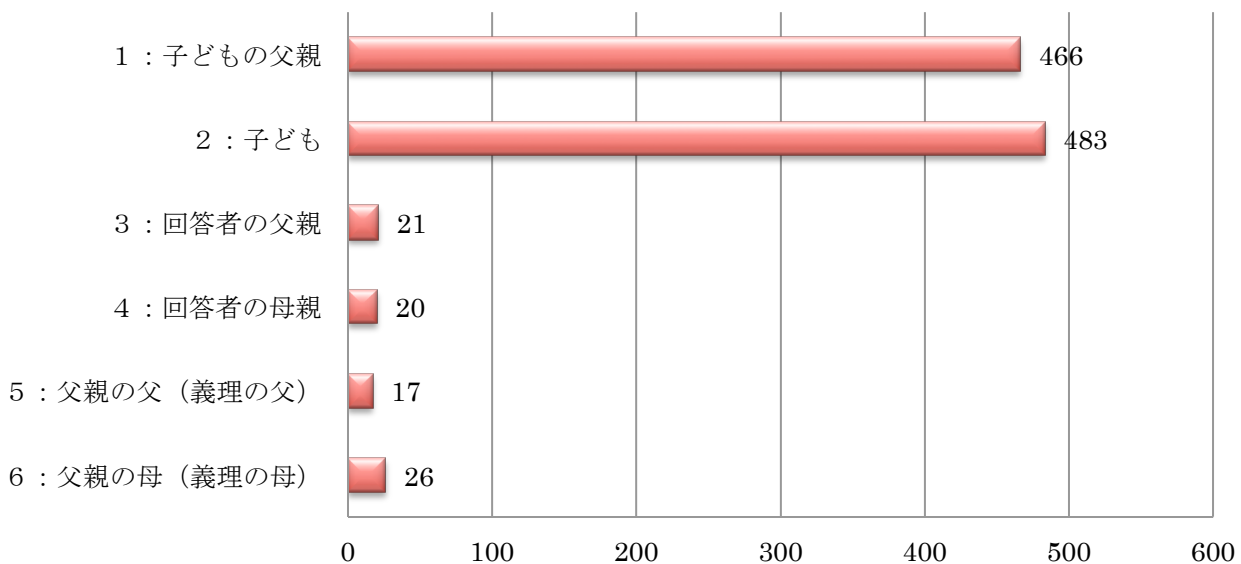
1-1：母親（回答者）の年齢



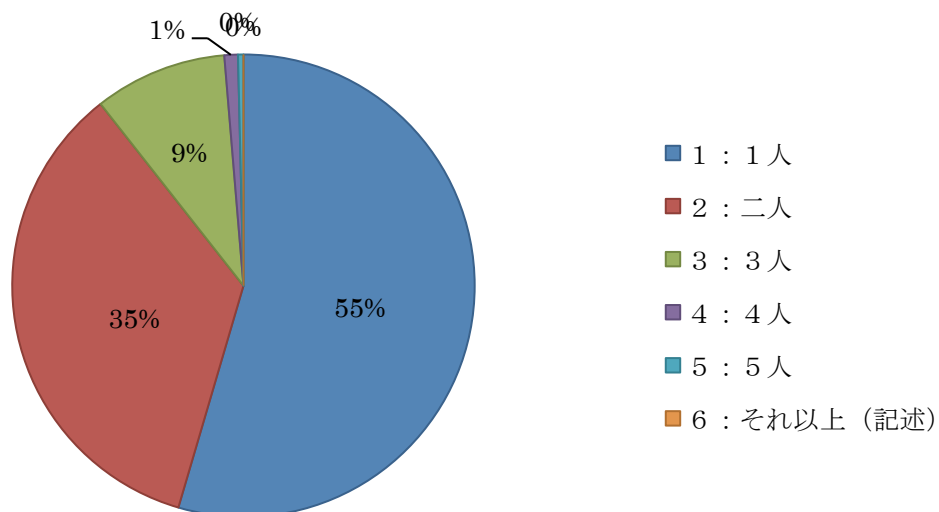
1-2：父親の年齢



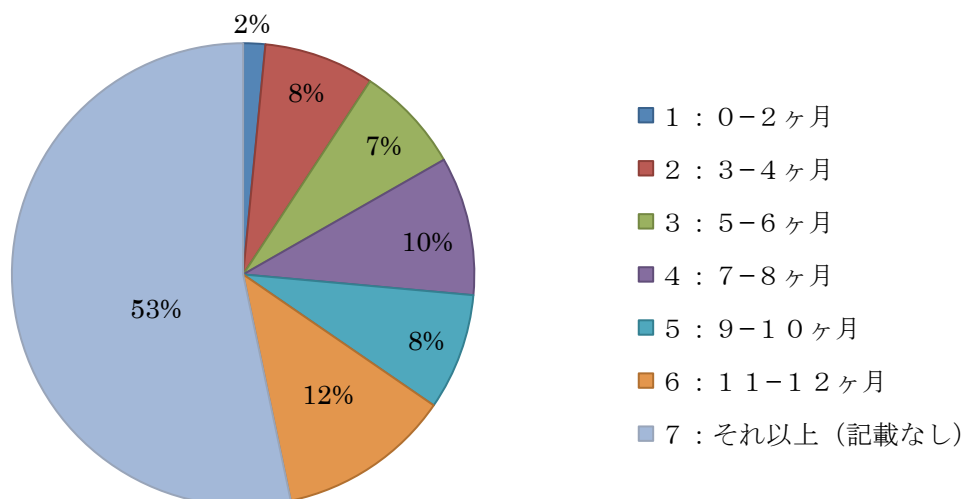
1-3：同居している家族（複数回答可）



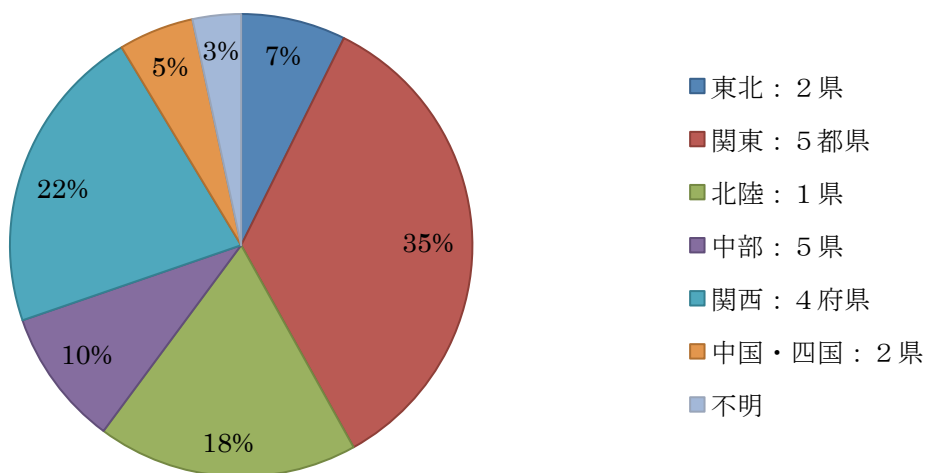
1-4：子どもの人数



1-5：子どもの年齢

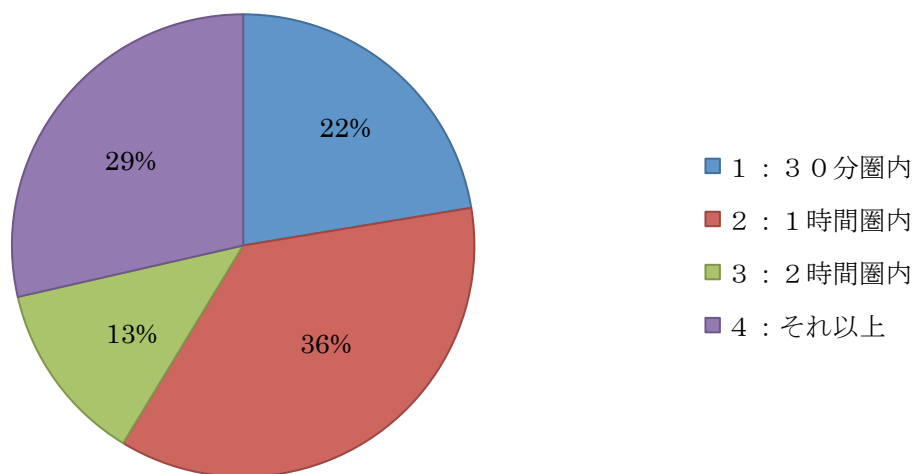


1-6：居住の地域

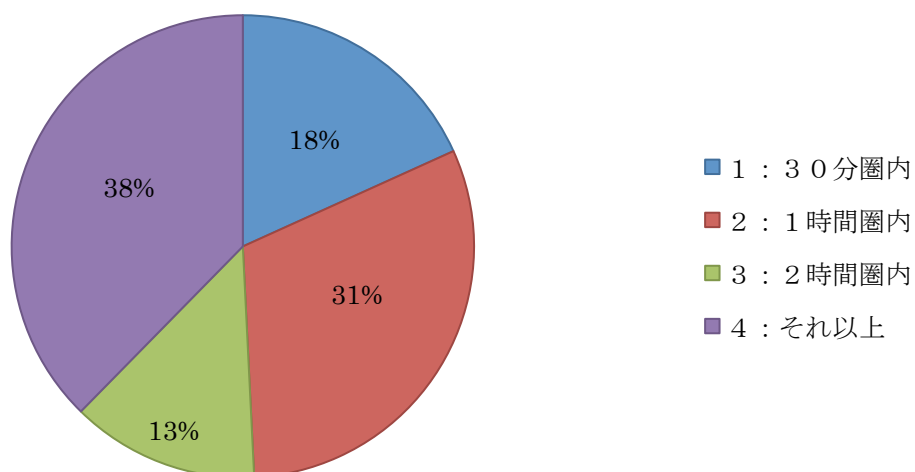


◆ 2：現在の子育て環境について

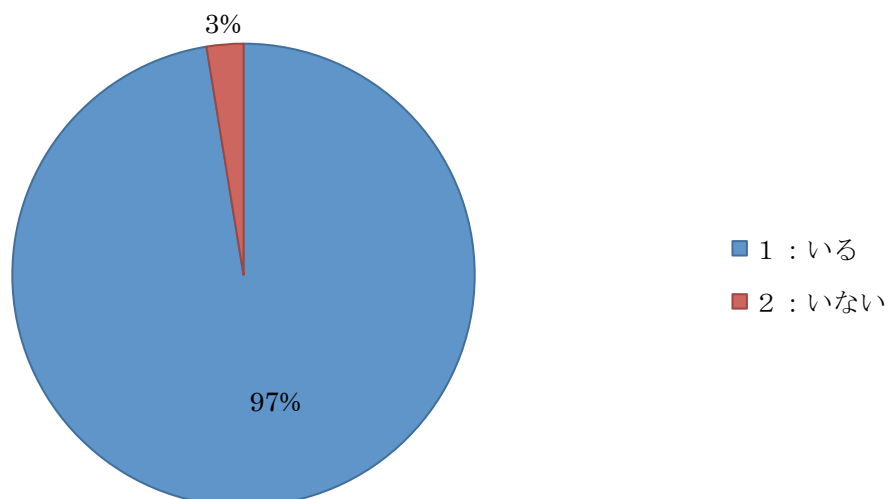
2-1：自宅と母親の実家の距離



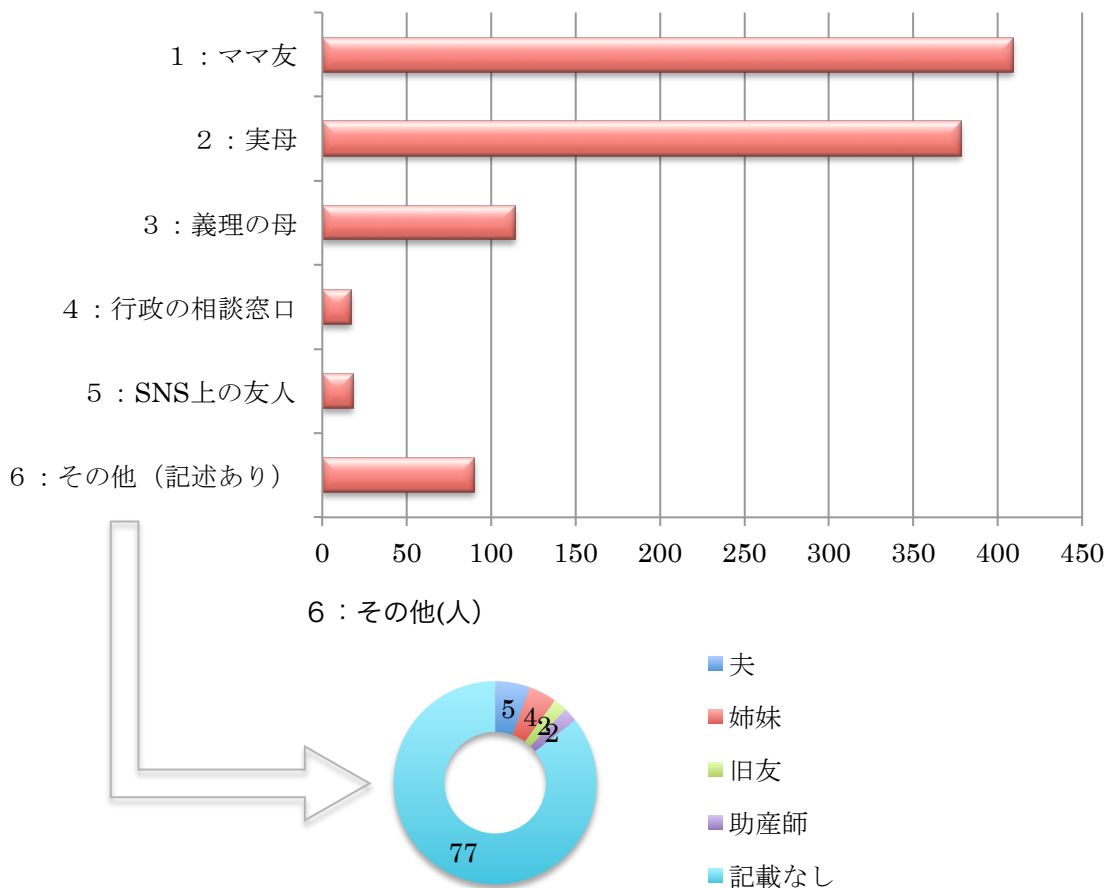
2-2：自宅と父親の実家の距離



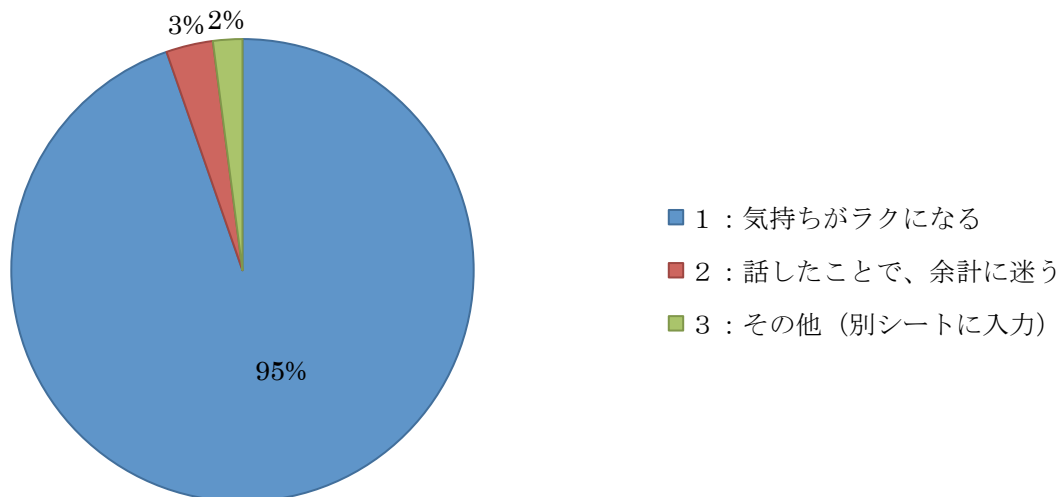
2-3：気軽に子育ての話をする・相談する人がいるか？



2-3-1：子育ての相談をする相手



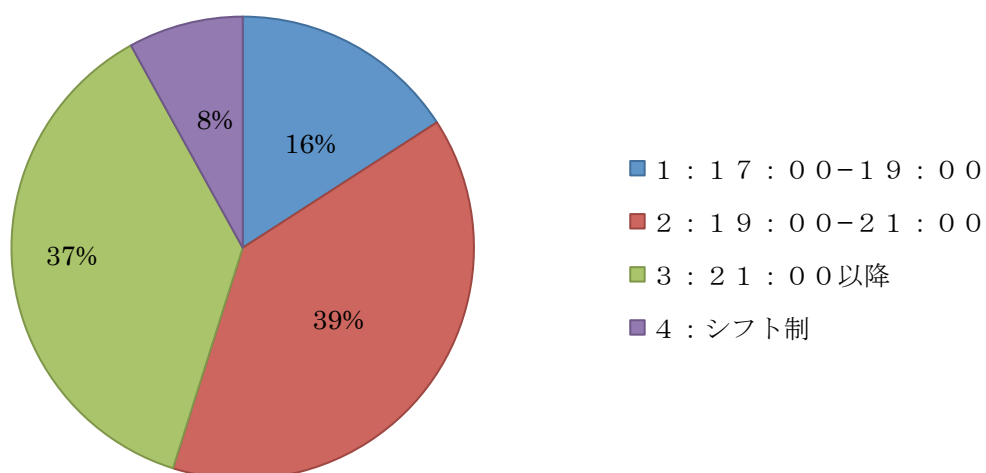
2-3-2：相談した後の気持ち



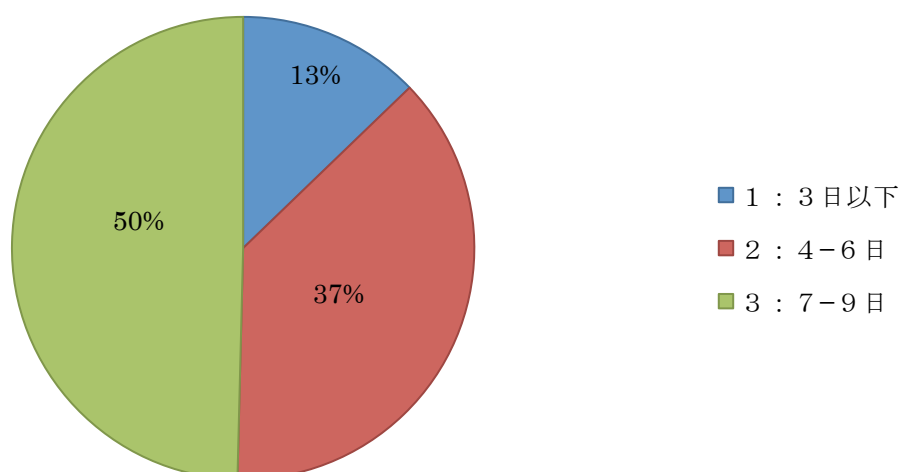
- ・考え方が違う時があるので、もやもやしたままになる。(夫)
- ・意見が合えば楽になるが、毎日合うとは限らないので腹が立つことも多い(夫)
- ・よくケンカになる(夫)
- ・勉強になる(ママ友、助産師)
- ・話すことで自分の中で整理できる(夫、ママ友)
- ・なるほどってなった(実母)
- ・実践してみようと思った(ママ友、実母)
- ・一般論だけ言われて、余計にもやもやした(保健師)
- ・そうだよね、と言ってもらえるだけで、気持ちが軽く(当協会講師)

2-4:お子さんの父親のお仕事の状況

2-4-1:平均帰宅時間

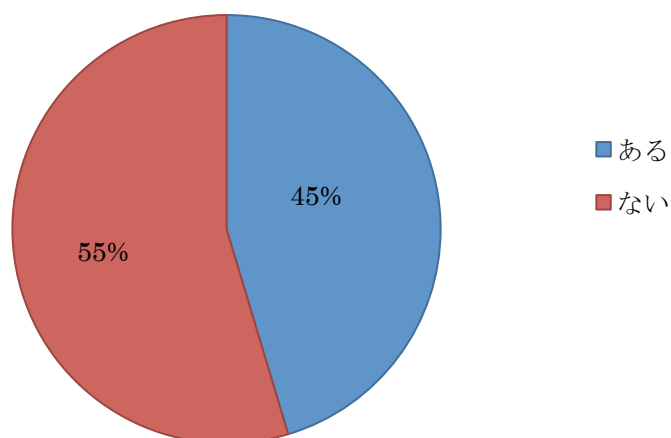


2-4-2:1か月の平均休日日数 (子どもと一日触れ合える日数)

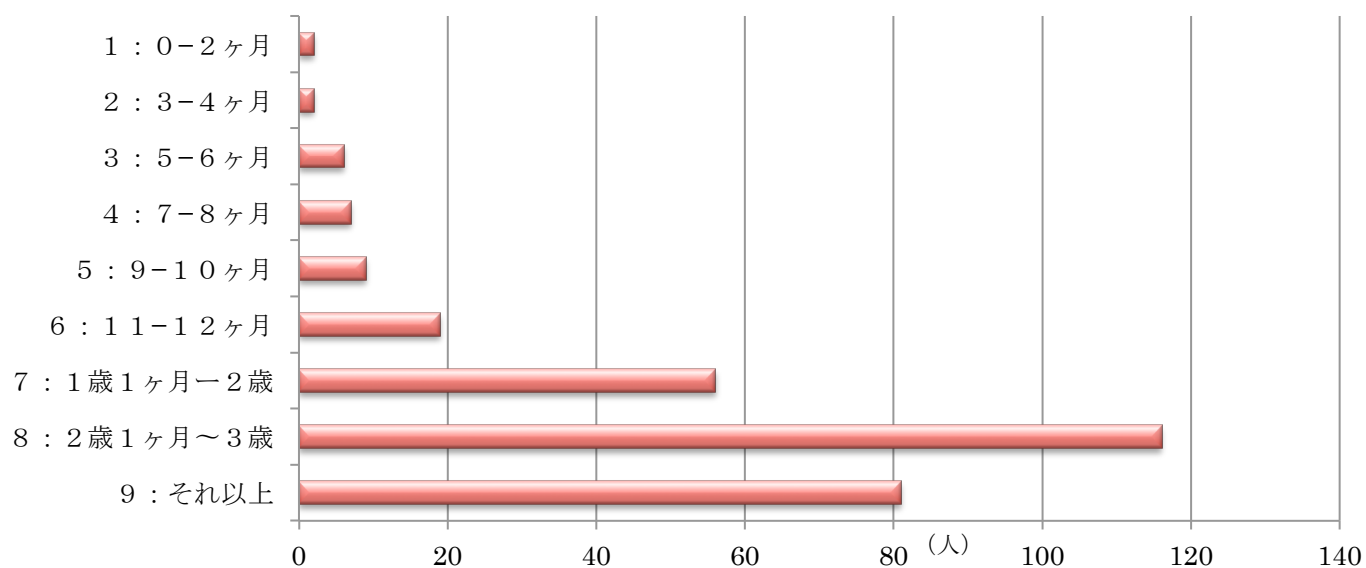


◆3:子育てのお悩みについて

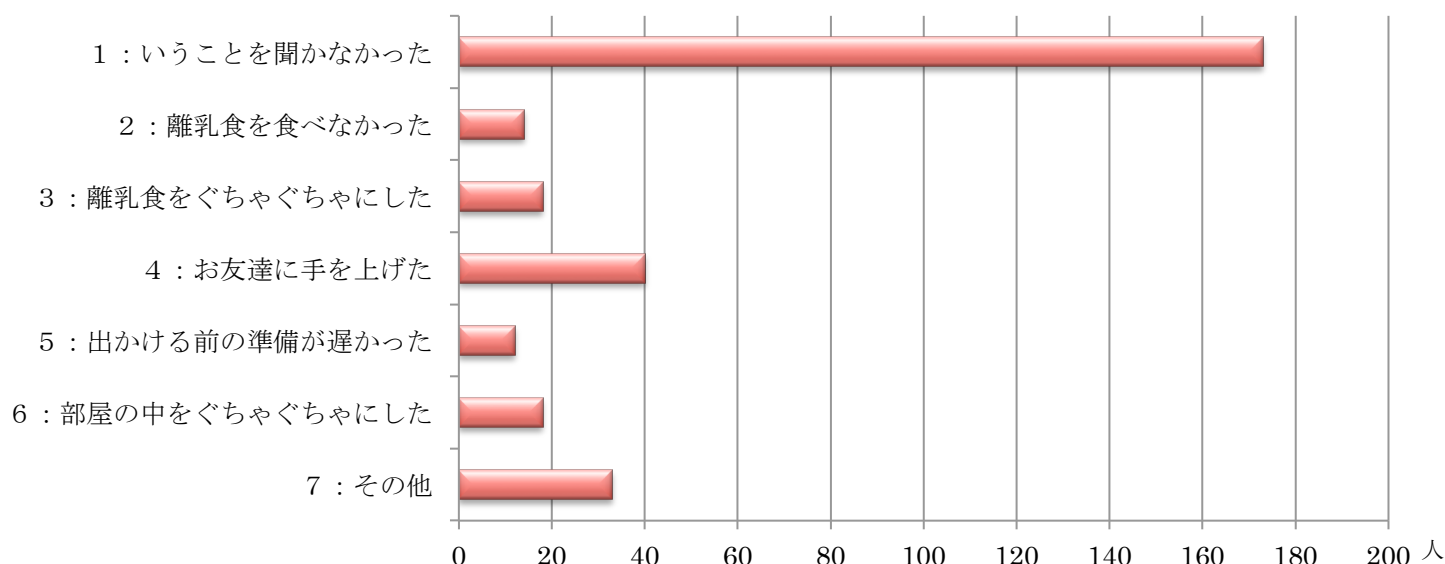
3-1:お子さんに手を上げたこと(叩く、蹴る、つねるなど)はあるか？



3-1-1:手を上げた時のお子さんの月齢（複数回答可）



3-1-2:手を上げた理由（複数回答可）



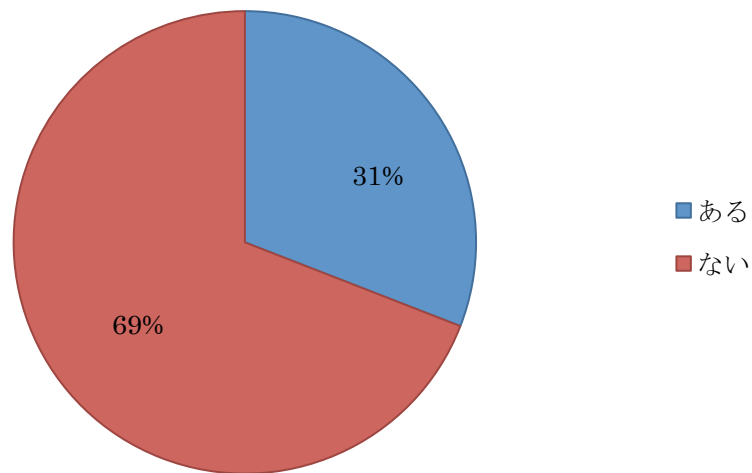
●手を挙げたその他の理由

- ・ やめてとお願いしたのに乱暴した
- ・ 子どもの、口のきき方が悪い
- ・ 注意をしたのに聞かなかった、聞こえないふりをした
- ・ 人の家のものを壊そうとした
- ・ 子どもから、暴力された
- ・ 危険な行為をした
- ・ 嫌な態度をとった
- ・ 悪いことをしたのに謝らなかった
- ・ トイレトレーニングの時わざとリビングで排せつした
- ・ なかなか、トイレトレーニングが進まない
- ・ 食べ物やおもちゃを粗末にした（投げた）
- ・ かんしゃくがすごかった
- ・ 自分がイライラしていた
- ・ 覚えていない
- ・ 夜泣きがひどかった
- ・ 兄弟げんか、下の子に手を出した

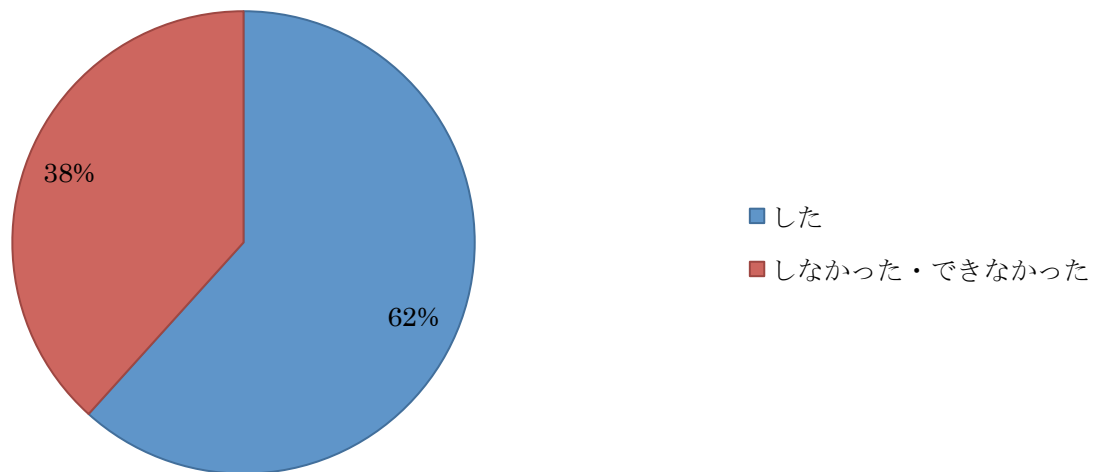
●手を挙げた時の、母親の気持ち

- ・ 罪悪感を感じた
- ・ もやもや
- ・ やっちゃった
- ・ 悲しく後悔した
- ・ 自分を責めた
- ・ やりきれない気持ち
- ・ はっとした
- ・ 怯える子供を見てなんてことをしてしまったのかと泣いてしまった
- ・ もっといい方法がなかったのかと反省
- ・ もう二度としない
- ・ さらに泣くし逆効果
- ・ 育児への自信がなくなった
- ・ 次は話をして言い聞かせようと思った
- ・ 母親失格
- ・ いけないと思っていても気持ちを抑えきれなかった
- ・ 友達に手を挙げたので同じ痛みで止めようと思った
- ・ 自分も人間だから許してと思う
- ・ しつけするうえで大切なことだと思う
- ・ 駄目だと教えていなくてはいけない

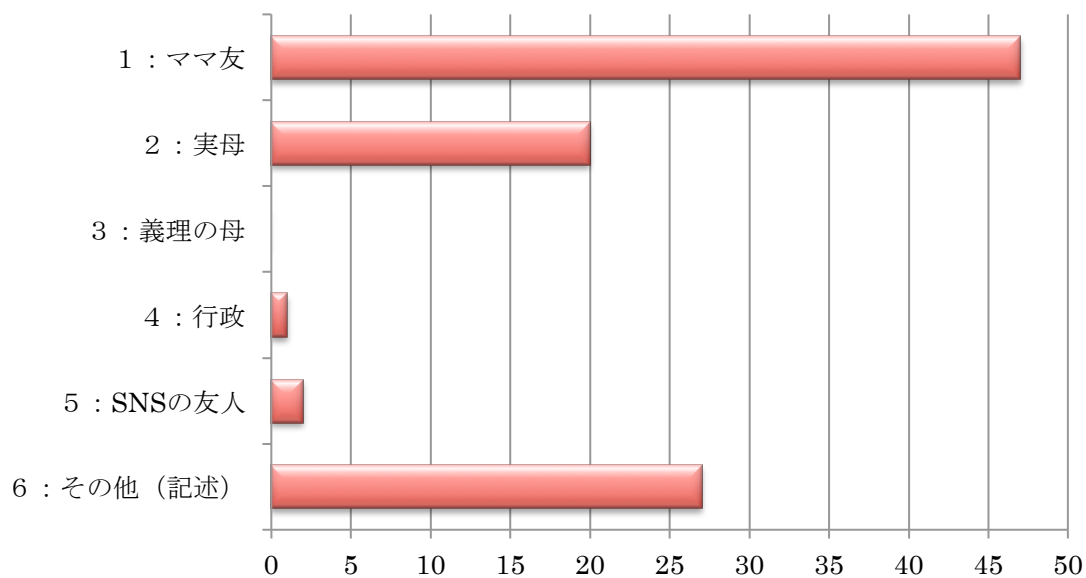
3-2:自分が子どもを虐待してしまうのではないかと感じたことはあるか？



3-2-1:その時、誰かに相談をしたか？



3-2-1-1:相談した方は、誰に相談をしたか？



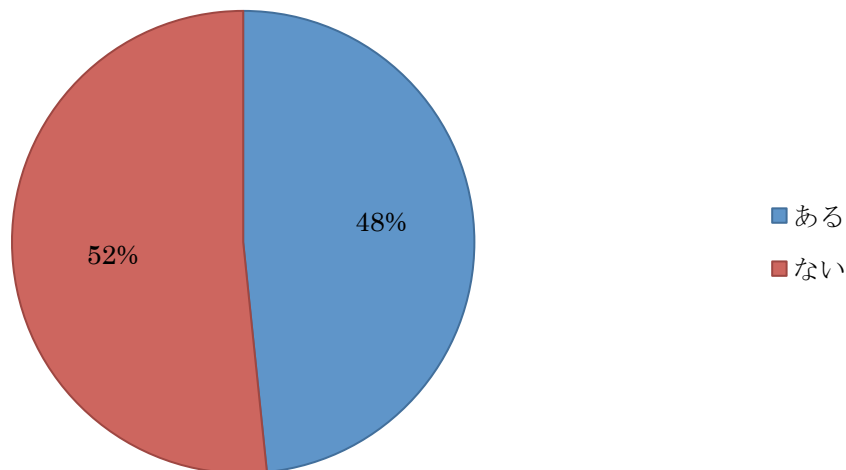
●相談した後、気持ちはどのように変わったか

- ・みんなそういう気持ちになるのかと思った
- ・楽になった、スッキリした
- ・心に余裕ができた
- ・今は仕方がないと学んだ
- ・手ではなく口で伝えようと思った
- ・話すうちに冷静になれた
- ・自分の気持ちを抑えるのはいけないと思った
- ・一人じゃないと感ずることができた
- ・もっと心が苦しくなった
- ・何も変わらなかった

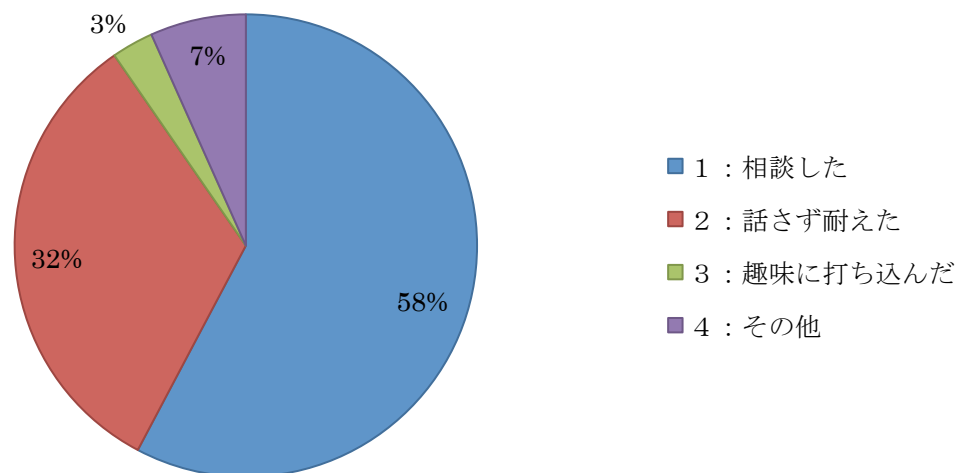
●相談しなかった方の理由や気持ち

- ・自分自身が生んだ子を虐待したということになるなんて信じたくなかったから
- ・口にするのが怖い
- ・非難されるのが怖い
- ・虐待のニュースを見ると自分もしてしまいそうになってしまう
- ・自分の中の問題だから

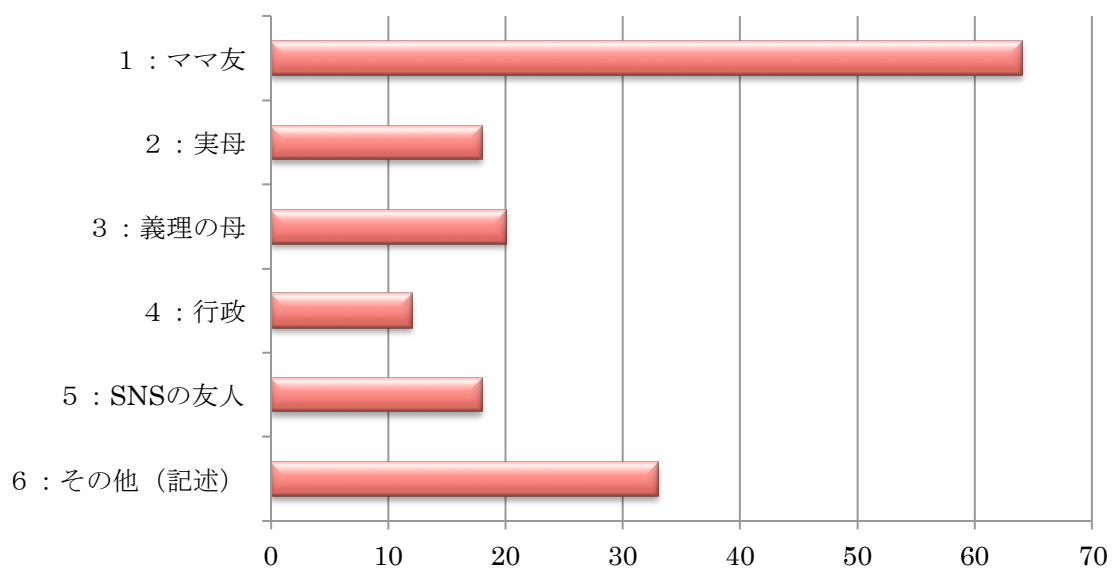
3-3:産後、無性に涙が止まらなくなったことはあるか。



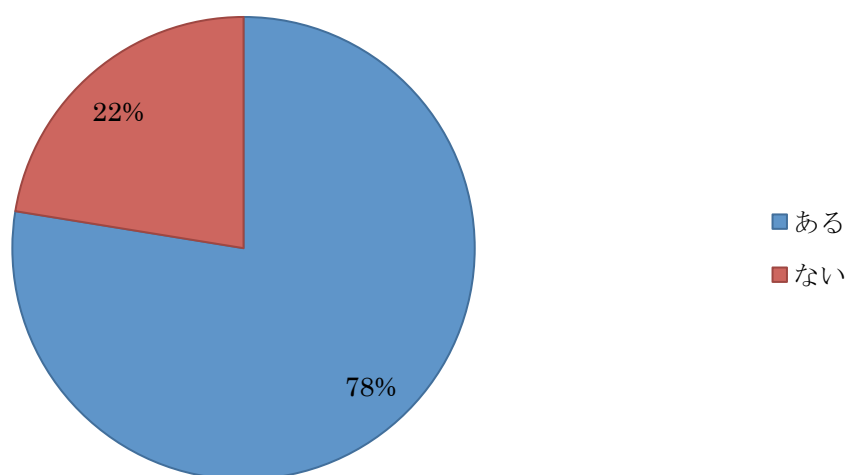
3-3-1:その時、どのように気持ちを立て直したか



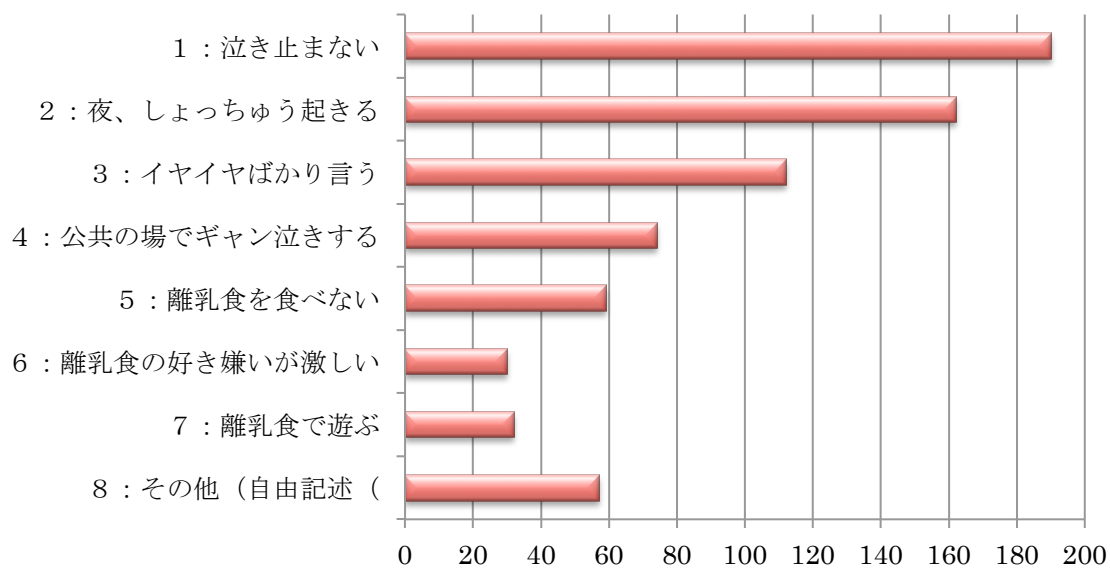
3-3-1-1:相談した方は、誰に相談をしたのか



3-4:子育てが辛いと、少しでも感じたことがあるか。



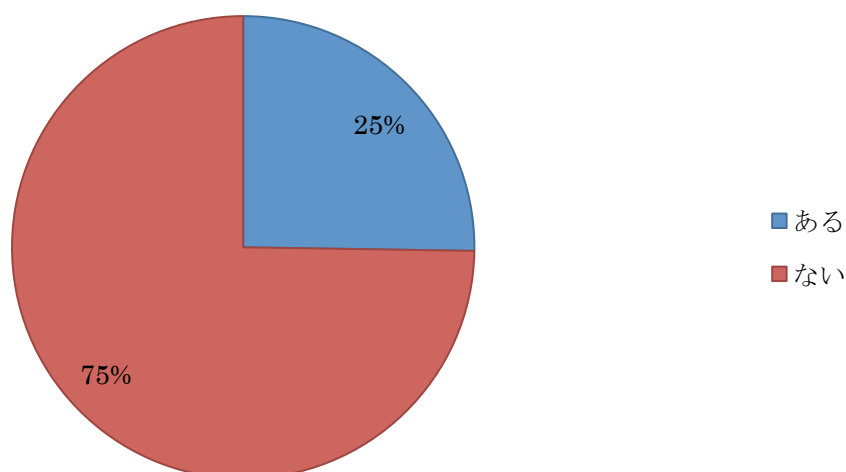
3-4-1:どういう時に辛いと感じたか？（複数回答）



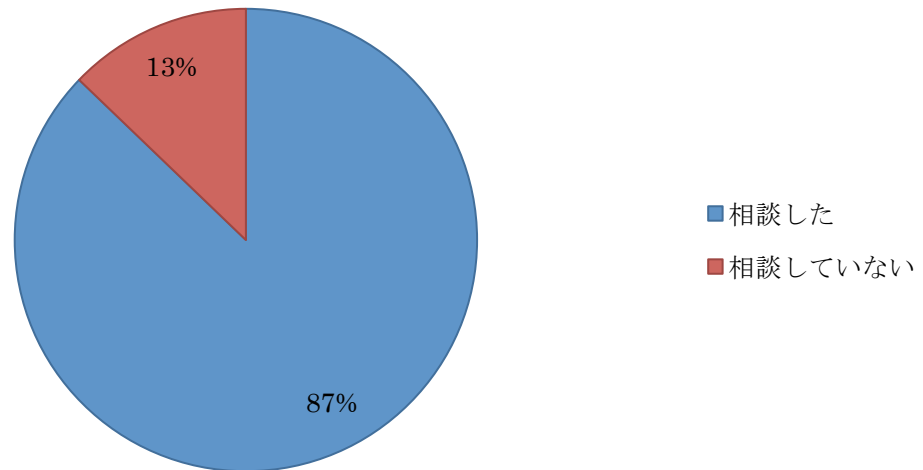
●子育てが辛いと感じた時（自由記述）

- ・ただ、ただ、赤ちゃんと一緒にいることがつらかった
- ・家事をしないといけないのに泣く
- ・ミルクを飲みすぎる
- ・夜寝れない
- ・食物アレルギーがひどくこの先どうなるかと心配になった
- ・母乳を飲まない
- ・あちこち行ってしまう
- ・話す相手がいなかった
- ・自分の時間が取れない
- ・旦那が協力的でない
- ・自分の調子が悪い時
- ・復職してうまく物事が行かない時
- ・夫の出張もあり一人で子育てできるか
- ・子どもの考えていることや行動が理解できない

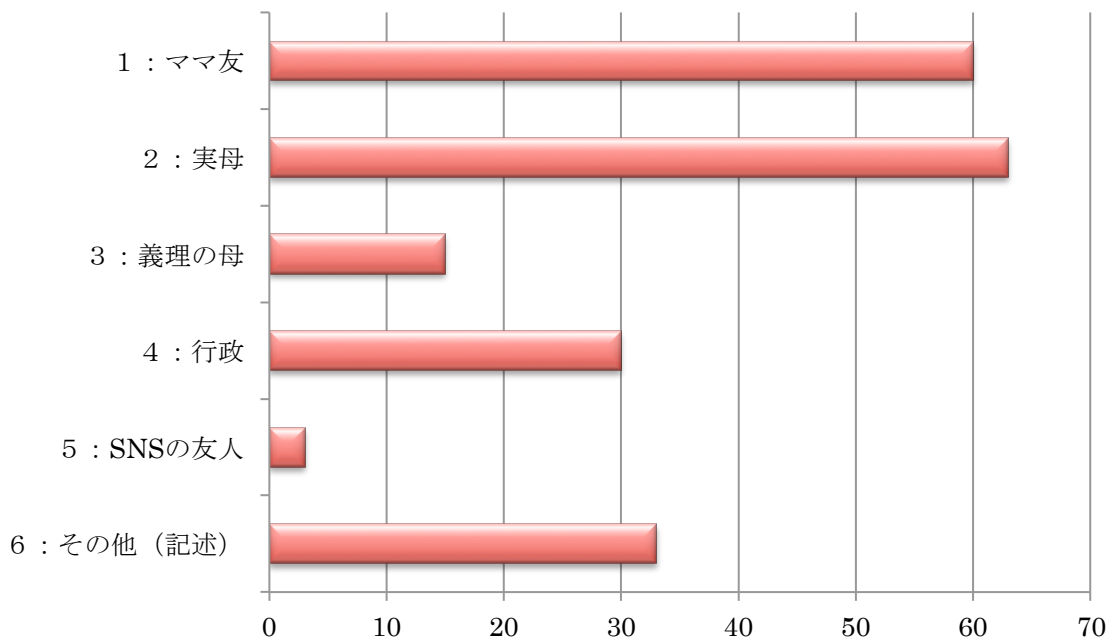
3-5:お子さんの発達で気になる点はあるか？



3-5-1:そのことについて誰かに相談をしたか？



3-5-1-1:相談した方は、誰に相談をしたか？



●3-5-1-2：相談した後、気持ちはどのように変わりましたか？

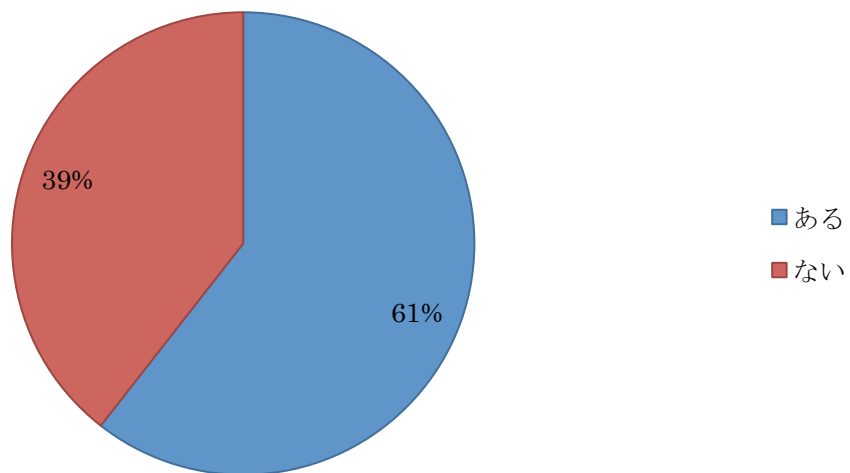
- ・ 大丈夫と言われ安心した
- ・ 言っていることがまちまちで迷った
- ・ こんなものなのだと気が抜けた
- ・ 自分の思ったような方向へ進まずもやもやした
- ・ 長い目で見ようと思った
- ・ 子供に対する気持ちも優しくなり、子供を信じるようになった
- ・ その子のペースがあると思ったら気にならなくなった
- ・ 欠点ばかりに目が行っていたのをいい点に気づかせてもらえるいい機会だった
- ・ 認めてもらえた様な気持ちになった

●3-5-1-3： 相談しない・できなかった方は、理由やその時の気持ちをお聞かせください。

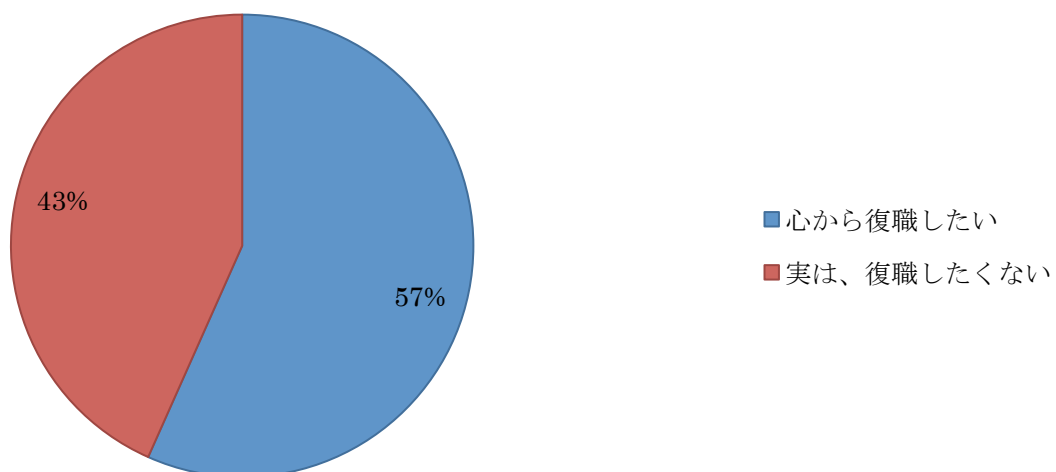
- ・ 相談に行ったことで病名がついたり、ママ友などの噂で広まるのを恐れたから。
- ・ 勇気がなかった
- ・ 様子を見ようと思った

◆4：復職について

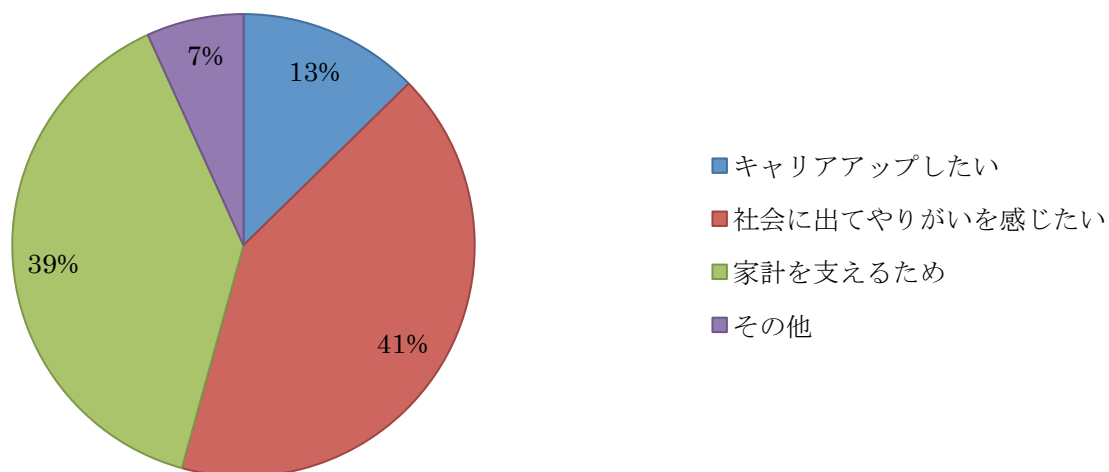
4-1:復職の予定はあるか？



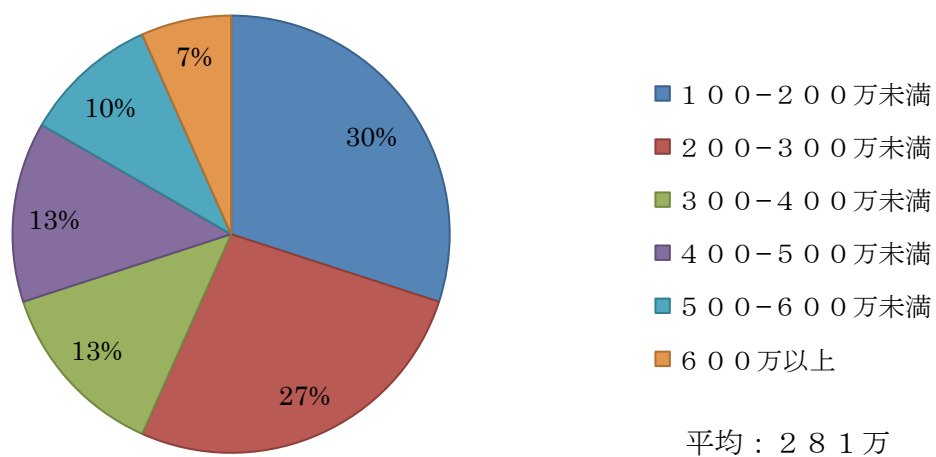
4-1-1:復職は、心からしたい!と感じるか？



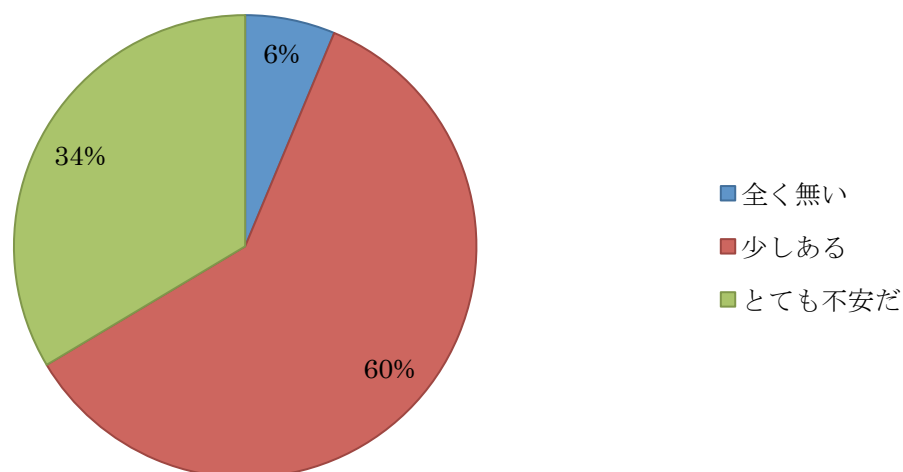
4-1-2：復職したい理由



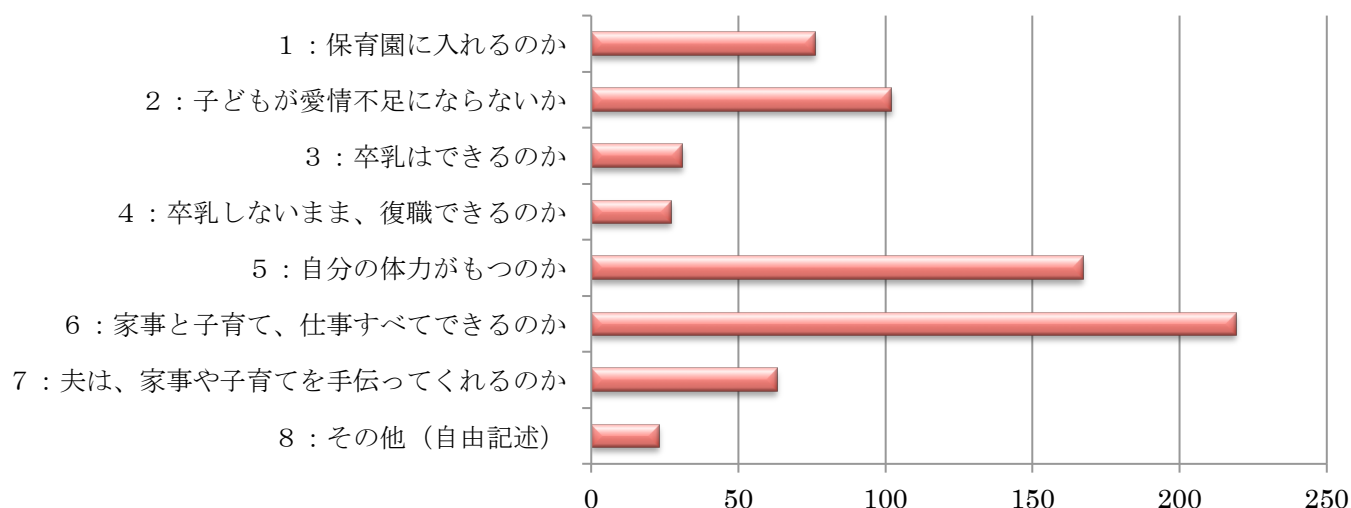
4-1-2-1:家計を支えるために復職する場合、夫の収入が年間あといくらあったら、家計は充分だと感じるか？



4-1-3:復職するに当たり、不安はあるか？



4-1-4: どんなことに不安を感じるか？（複数回答）

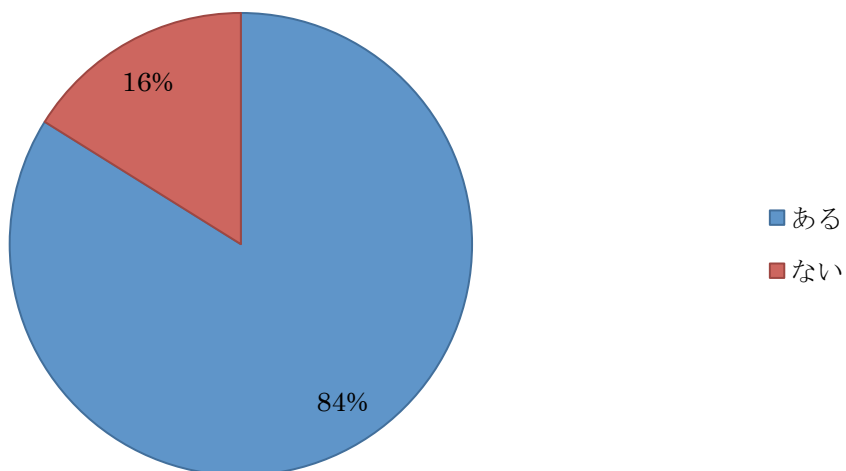


●4-1-4：その他

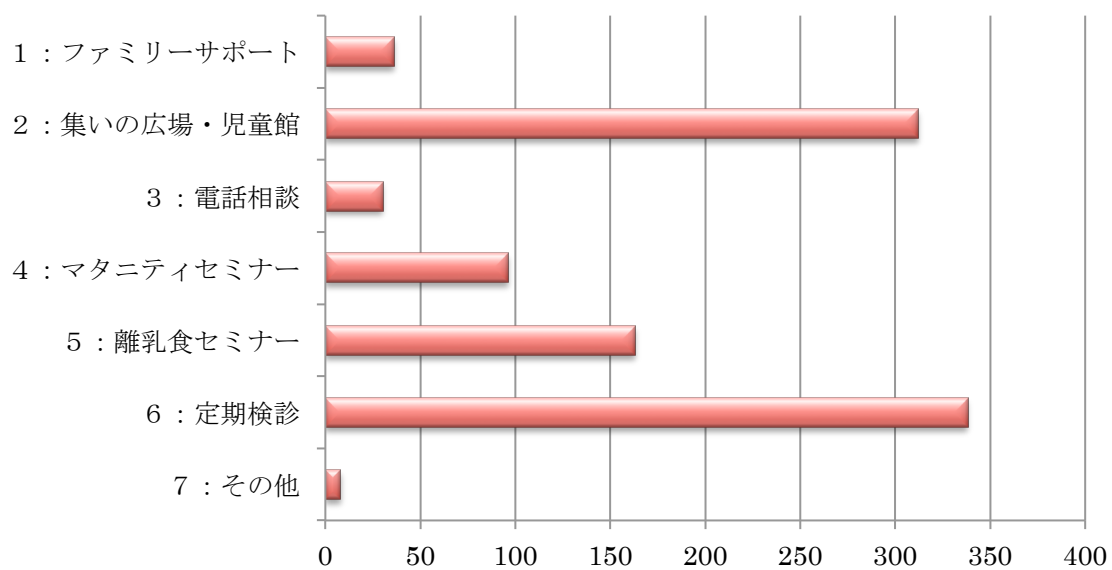
- ・ 子供は保育園に慣れるのか
- ・ 子供の急病時、会社が早く休ませてくれるか
- ・ 自分のことでいっぱいになりそう
- ・ 寝かしつけはうまくできるか
- ・ 定時に帰れるか
- ・ お弁当づくりを続けていけるか

◆5：行政の子育て支援サービスについて

5-1:行政の子育て支援サービスは利用したことがあるか？



5-1-1:利用したことの行政サービス（複数回答）



5-1-2：利用したサービスの、良かった点・悪かった点

1：マタニティセミナー

【良かった点】	【悪かった点】
旦那さんと参加できること	一方的に聞いているだけで自分の聞きたい事を聞けなかった
旦那さんが父親になる自覚を持てた	
情報交換ができた	
未知の世界のことが知れた	
妊婦同士の交流ができてよかった	

2：ファミリーサポート

【良かった点】	【悪かった点】
安心して用事が出来た	登録はしたが利用時に予約が必要なためとっさのときに利用できず機会がない
気分転換になった	お財布に厳しい
子供と離れる時間ができた	保育士さんではないので保育園があるほうがいいと
利用しやすい	一ヶ月たってもサポーターが見つからなかった
子供が楽しんでいた	人見知りが激しく困らせてしまった

3：集いの広場・児童館

【良かった点】	【悪かった点】
子供を遊ばせながら、保育士さんに相談できるのがうれしい	親同士が夢中になり子供がほったらかし
自分も子供もたのしくすごせた	古い情報の時もありアドバイスが役に立たない
いろいろな子や親の様子が知ることができ安心する	児童館が狭く思いっきり遊べない
友人ができた	おもちゃが汚れたまま
同じ月齢の子や、ママに知り合える	衛生面が気になる
遊べる場所があると困らない	責任者がいないためルールを守っていない人がいても注意されない
近所の友人ができた	小さな地区なので家庭のことを相談しにくい
子供といえる時間が増える	慣れるまで行きづらい
おもちゃを買わなくても気のすむまで遊ばせられる	ママ友の輪に入りづらい
家ではできない遊びができる	田舎なので集まりにくい
気晴らしになる(母)	人見知りでほぼ泣いていた
家にはないおもちゃが多く新鮮だった	休日も明けてほしい
気分転換になった	幼稚園児が遊べる時間がない
散らかされる心配がない	

4：電話相談

【良かった点】	【悪かった点】
顔が見えない分話しやすい	直接的なアドバイスにはならなかった
気軽に電話できる	知識がなさすぎる
	電話をかけるのに勇気がいる

5: 離乳食セミナー

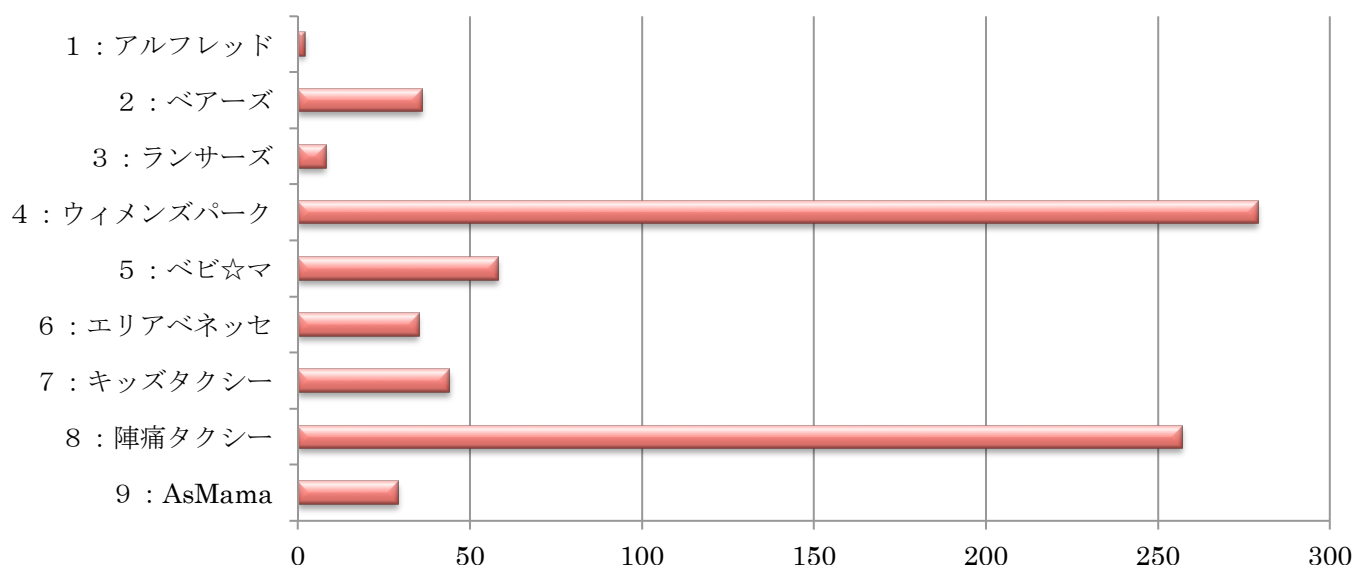
【良かった点】	【悪かった点】
具体的に簡単な作り方を教えてもらえてやる気になった	知っている内容ばかりであり役に立たなかった
メニューの数が増えた	子供を預けるところがなく負担だった
現在の状況を見直すことができる	アレルギーがひどく参考にならなかった
	実施時期が遅い
	全然食べてくれず余計不安になった

6: 定期検診

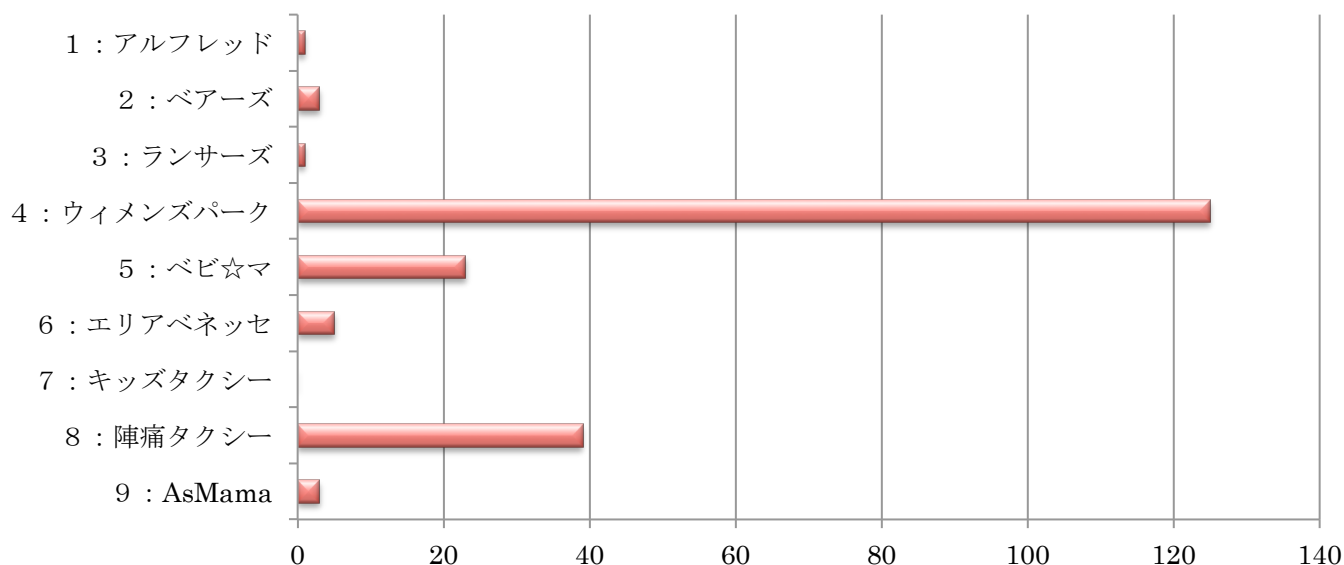
【良かった点】	【悪かった点】
小児歯科医に診てもらえて安心だった	母子手帳の主な項目を流れ作業にこなすだけで当時相談したいことがあっても時間が合わなく断念した
月に一度成長を確認できる	たくさんの人がいて時間がかかった
	午後からスタートで午前中なら兄弟を預けれるのにと
	区役所で受ける必要性を感じない。
	時間がかかる
	上の子を連れていくと大変
	上の子を預けるところがない
	他の子と比べてしまい落ち込むこともあった
	病気の伝染がないか不安だった

◆6:民間の子育て支援サービスについて

6-1:名前を聞いたことがある、サービスは？（複数回答可）



6-2:下記の中で、利用したことがあるサービスは？（複数回答可）



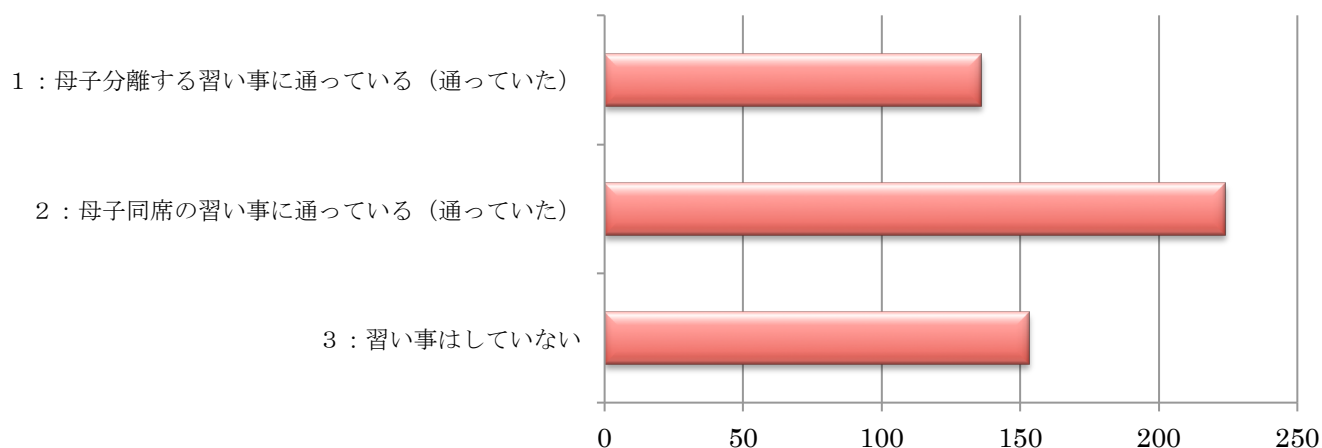
6-2-1:利用したサービスの良かった点、悪かった点

4 : ウィメンズパーク

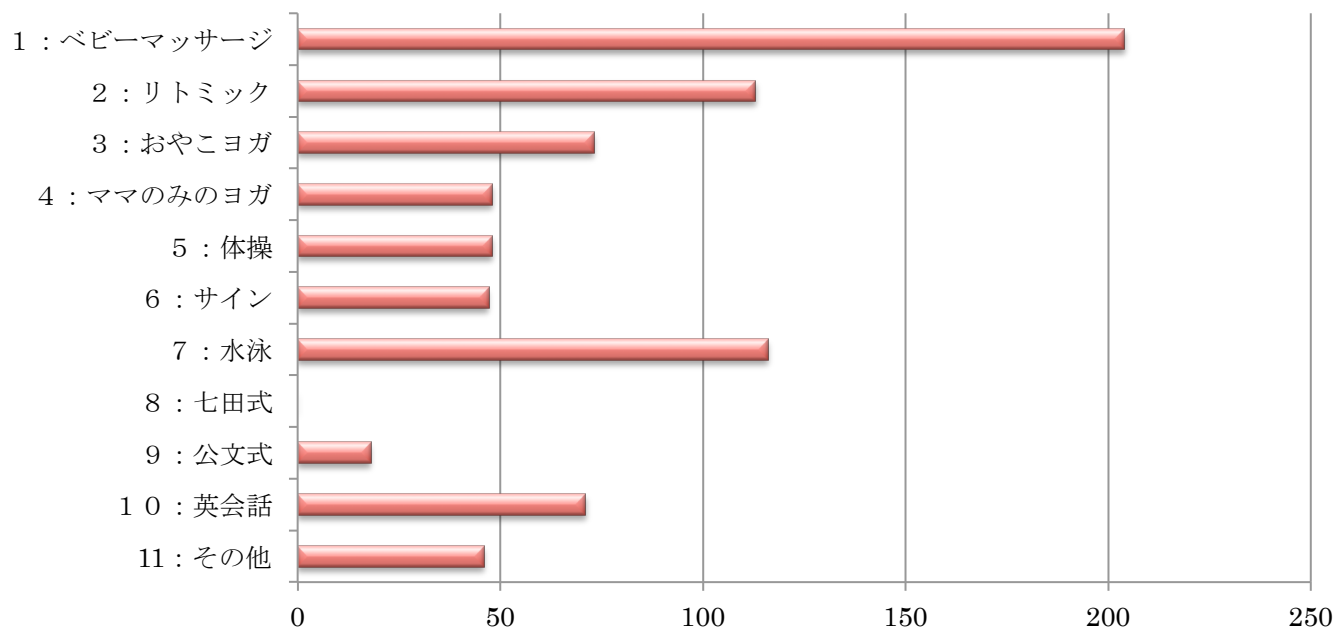
【良かった点】	【悪かった点】
地域の情報を得やすかった	スマホを見る時間が長くなる
口コミが見れていい	口コミなのですべてを信じないようにしている
他の人の考えが聞けていい	ベネッセの情報流出の時被害にあった
共感が持て気持ちが落ち着く	細かく見にくい
悩みの解決法を知れてよい	コメントが少なく参考にならなかった
	ログインが面倒
	情報が多すぎてわからなくなる

◆7:お子さんの習い事について

7-1:習い事について、当てはまるものをお選び下さい



7-1-1:通っている、もしくは通ったことがあるお教室 (複数回答可)



7-1-2：それぞれの習い事の良かった点・悪かった点

1：ベビーマッサージ

【良かった点】	【悪かった点】
子供とのかかわり方、遊び方を教えてもらって子供とのふれあい方が分かった	よく泣く子なので気を使った
子供の喜ぶ顔が見れる	時間がとられる
自分も楽しい	子供には合ってなかった
親子ともに心が落ち着いた	楽しいが金銭的に続けるのは厳しい
気分転換になった	人数が多く騒がしく先生の声が聞こえなかった
スキンシップになる	定員がいっぱいになると入れない
小さい時からできる	
よく寝てくれた	
育児休業中の楽しみができた	
子供の便秘が治った	
体の変化に気づく	

2：リトミック

【良かった点】	【悪かった点】
たくさんの歌を教えてもらった	子供がやらされることを嫌がった
ドレミを少し覚えることができた	
友達と歌ったり踊ったりする楽しさを感じられた	
自由な雰囲気よかった	
異年齢合同クラスがあり兄弟で行けた	
人前に立つことが恥ずかしくなくなった	
音楽が好きになった	
体を動かしいい運動になる	
体を動かせるようになった	
自分自身楽しめた	
表情豊かになった	
協調性が生まれた	

3：おやこヨガ

【良かった点】	【悪かった点】
自分の運動になってよかった	子供が動くから集中できない
体が楽になった	子供が泣き氣をつかう
リフレッシュできる	
笑うようになった	

4：ママのみのヨガ

【良かった点】	【悪かった点】
リフレッシュできた	
母子分離が初めてできた	
一人になれるので気持ちにゆとりが持てる	

5：体操

【良かった点】	【悪かった点】
楽しそうに体を動かしている	他の子供と比べてしまい気疲れした
いろいろな動きができるようになった	
天気関係なく体を動かせる	
一緒に楽しめてよかった	

6：サイン（赤ちゃんとの手話教室）

【良かった点】	【悪かった点】
一緒に遊べたりしとても楽しい	サインが出ないと焦るママもいた
効果がすぐ表れない	
個性が表れる	
サインをしている子供がかわいくて癒される	
子供とのコミュニケーションが取れた	

7：水泳

【良かった点】	【悪かった点】
スキンシップがとれる	送迎が大変
体が強くなる	
水を怖がらない	
風邪をひきにくくなった	
我慢する力が磨けた	

9：公文式

【良かった点】	【悪かった点】
文字や数字に興味を持てるようになった	宿題があるのでうまく進めていかないと本人がつぶれそうになるのでフォローが大切
読み書きができるようになった	
どんどん成長ができた	

10：英会話

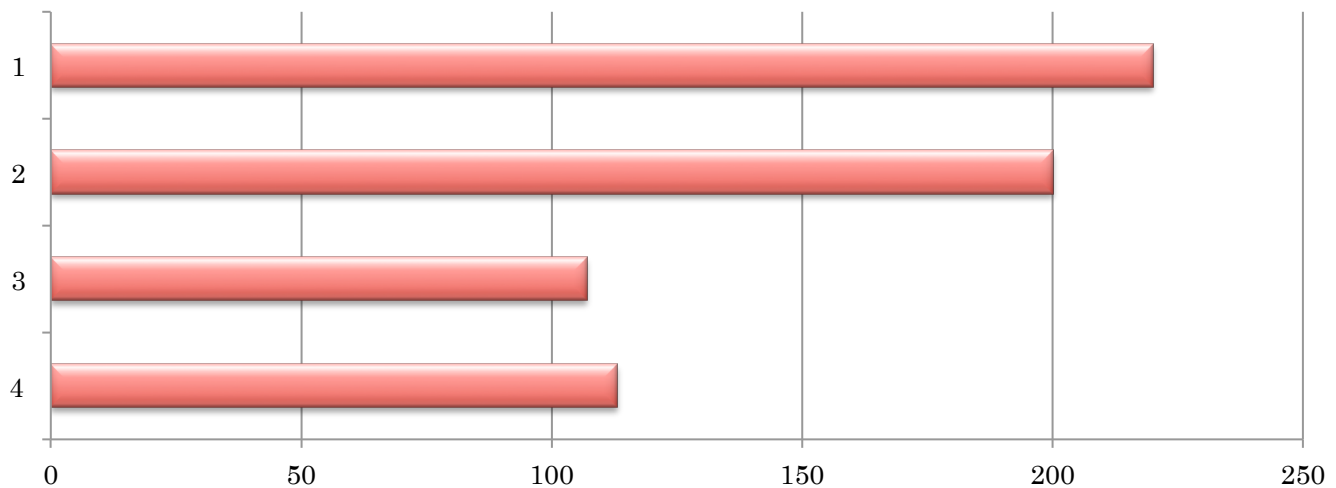
【良かった点】	【悪かった点】
簡単な英語を言えるようになった	英語の会話にまでできない
英語に興味が待てる	
親子で楽しめる	

11：その他

【良かった点】	【悪かった点】
空手：年上の子が下の子の面倒を見たりするので年上の子を好きになった。下の子を可愛がるようになった	
ダンス：自分のやりたいことなので責任を持って用意できる	
親子教室：同じことに一緒に楽しめる。季節によって内容が変わり学校に行っているようだった。	
サッカー：チームワークも学べ礼儀も身に付いた	
ドラキッズ：自分の知らなかったことを子供から聞き、家族の会話が増えた	
フラダンス：気分転換、軽い運動、産後のダイエットになった	
児童教室：発達を延ばしてくれた	

◆8:こんな子育て支援サービスがあったらいいな、と感じるもの

- 1：いろいろなベビー系の習い事が一箇所のできる「ベビー系スタジオ」
2：同じ月齢のママとお子さんが、継続的に集まり子育て相談ができる「座談会」
3：ママがお買い物をしている間、一緒にお店を回りながら子どもの面倒を見てくれる「保育つき:買い物同行」
4:その他

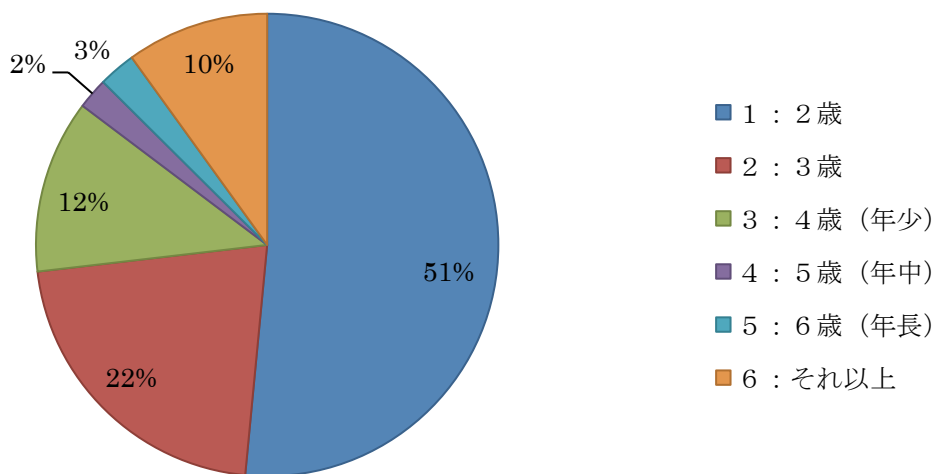


●4：その他

- ・ ママの急病の際に近くの病院まで一緒に行き待合室で面倒を見てくれるサービス
- ・ 違う月齢や年齢の集まる会
- ・ ママの習い事の横で子供の習い事
- ・ 産後6ヶ月くらいの間定期的に訪問して、産後の体調や育児相談、赤ちゃんの様子を見てくれるサービス
- ・ 外遊びを一緒にできるサービス
- ・ ママ専用の図書館
- ・ 父と子が参加できる習い事
- ・ 二人以上子供がい一人だけ病気になった時、元気な子を預かってほしい
- ・ お風呂やご飯の時間にサポートしてほしい

◆9：2歳以上のお子さんをお持ちの方で、子育てをしていて、一番辛い・大変と感じたのは、お子さんが何歳の時か？

子育てが辛かった時期

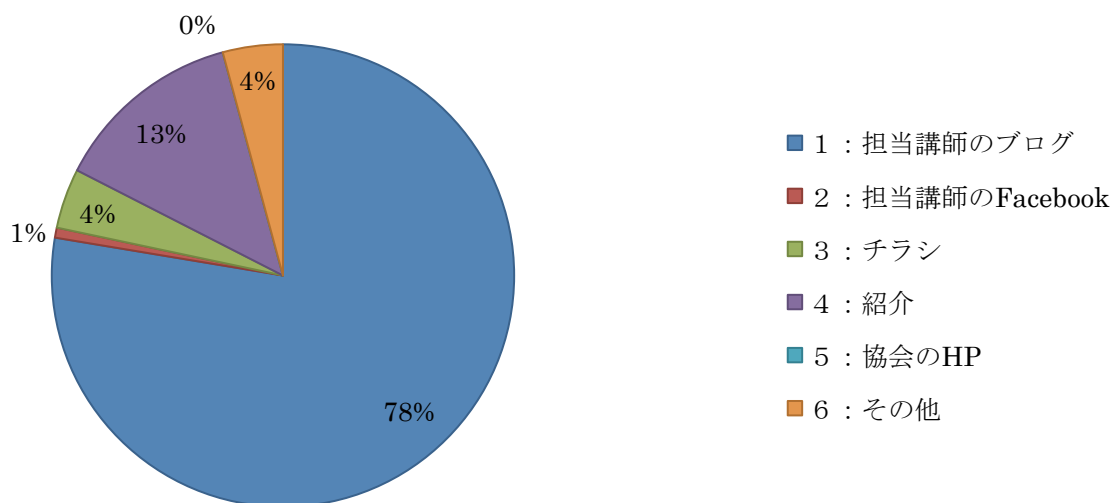


●辛いと感じた理由

- ・イヤイヤ期がつかった
- ・毎日泣いて嫌がる子供を幼稚園まで送迎して子供が家に帰ってからも泣いていた
- ・とにかくわけがわからなかった
- ・下の子が妊娠中で自分に余裕がなかった
- ・夜泣きがひどかった
- ・いろいろのことがわかってきてさみしがり屋になった
- ・反発ばかりしてきてどう対応すればいいのか分からなかった
- ・話が通じない
- ・出来ないことが多いのにやりたがるから
- ・外に出ると大泣きし外出するのがいやだった
- ・下の子ができ赤ちゃん返り
- ・脱走がすごかった
- ・いろいろなことに興味が出る分してはいけないことをしたがる
- ・こだわりが強い
- ・赤ちゃん期に比べて悩みが大きい
- ・ずっとだっこしている
- ・周囲と比べてしまう

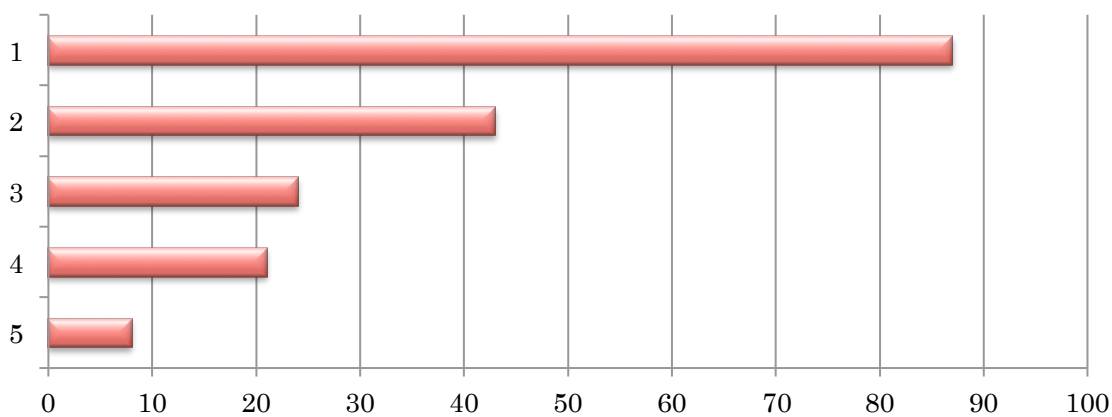
◆10:乳幼児子育てサポート協会の認定教室について

10-1:乳幼児子育てサポート協会の認定教室を、どのように知ったか。



10-2: 教室への参加を決めた理由

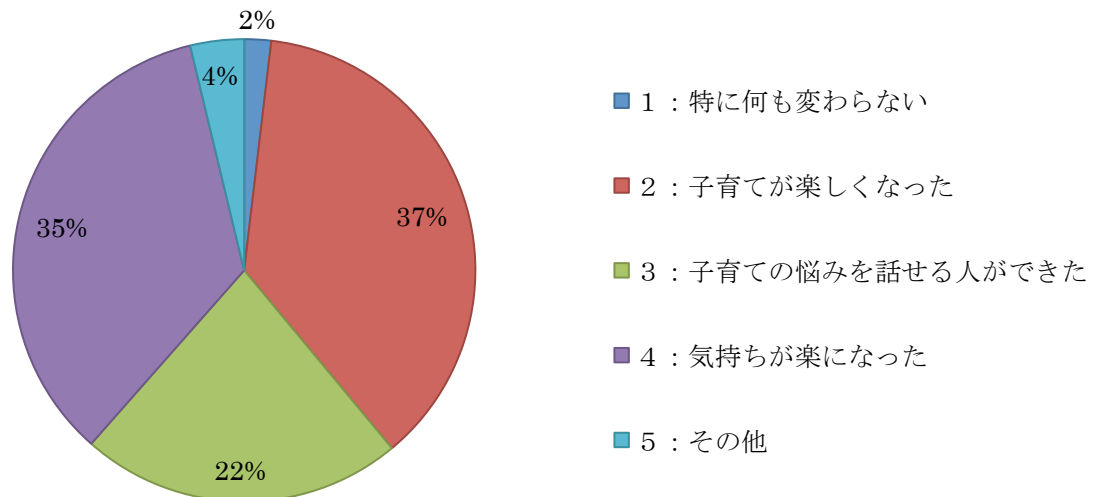
- 1: ブログやチラシの写真が楽しそうだったから
- 2: 担当講師が頼りになりそうだったから
- 3: 近隣に他に似たようなお教室がなかったから
- 4: 友だちに勧められたから
- 5: その他



その他

- ・ 家から近かった
- ・ 日程が、参加しやすかった

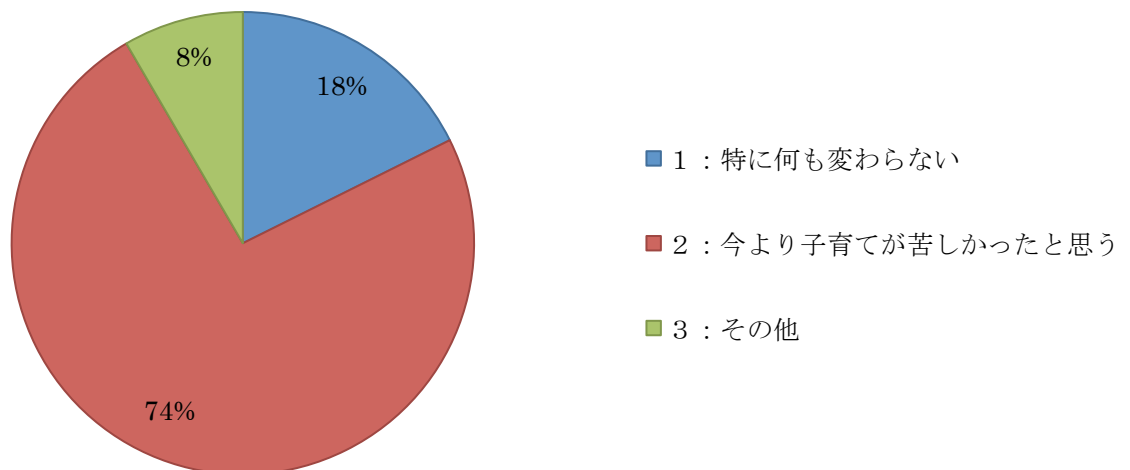
10-3:参加をして、ご自身はどう変わったか。



●5：その他

- ・ ママ友ができた
- ・ 出かける予定ができて、とても嬉しかった
- ・ 慣れない土地でも、楽しく過ごせるようになった
- ・ 子育ての楽しみが増えた

10-4:参加していなかったら、今、ご自身は どのような状況・気持ちだったか。



●3：その他

- ・ ママ友ができなかった
- ・ 子育ての楽しみがなかった
- ・ 家にこもっている時間が長かった

【3：アンケートの考察】

今回のアンケートは、特に

- 1：産後の女性が、必要とする相談相手について
- 2：男性が子育てに関わる時間について
- 3：2歳（イヤイヤ期）の子育てについて
- 4：行政の子育て支援サービスについて
- 5：復職について

の5点に対して、重点的に分析をしたいと考え、実施しました。

以下がアンケートの考察となります。

1：産後の女性が、必要とする相談相手について

（社）乳幼児子育てサポート協会では、「子育て中という同じ立場のママ同士」と「子育てのちょっと先輩」との繋がりを作ることに力を入れて活動をしている。

これは、夫である男性では、産後の女性の「感情」に共感しきれないこと、実母や義理の母では、時代の変化とともに子育ての方法が変わっているため、相談しにくい・また、相談しても解決にならないことが多いと考えたため。

アンケート結果（P6）では、ママ友に相談するという女性が409人で、全体の74%。夫に相談すると答えた77名に比べ、約5倍となっている。

自分が子どもを虐待してしまうのではないかなど感じたことがある女性も、ママ友に相談した人が最も多く47名となっている。（P10）

ママ友に相談する女性が、一番多かったこと、夫や行政に相談する女性が少ないことは、仮説通り。想定以上に、実母に相談している女性が多かった。

また、相談するときは「自分を批判されるのではないかな」という不安を抱えている女性が多いこと（P11）、その時の気持ちに共感してもらうことで、気持ちが楽になることが分かった（P8）。

つまり、産後の女性に対して「同じ産後の女性という立場のママ友」「子育ての知識を持ちながら、産後の女性の気持ちに共感できる人」と知り合える場所を提供することが、子育て支援として必須と考える。

2：男性が子育てに関わる時間について

男性の育休など、男性の子育てへの関わりについて話題になる事が多いが、実際はどの程度、子供と関わる時間があるのかを、分析。

P7の通り、仕事がある日の帰宅時間は19：00～21：00が最も多く39%。
続いて21：00以降が37%となっている。

就園前のこどもは、基本的に21時前に寝る子どもが多く、また、19時以降は、お風呂に入るなど、就寝準備をしていることが多い。

男性が子育てに関わる時間は短いであろうと想定していたが、仕事がある日の帰宅時間が、子どもが寝ているであろう21時以降という男性が想定以上に多かった。

つまり、仕事がある日に男性が子どもと過ごす時間は限りなく短いと考えられる。

子どもをお風呂に入れる、食事を作っている間子どもを見てくれる、食事の片付けをしている間に子どもの歯を磨く

などを求めている産後の女性が多いが、それができないのが、現状ということ。

まず、企業が仕事の時間を短くする働き方と仕組みを作ることが必須と考える。

3：2歳（イヤイヤ期）の子育てについて

行政の子育て支援は0歳児には手厚いが、1歳半以降の子育て支援がほとんどないのが現状。

実際に、一歳半から就園前の子どもを持つ母親が、行き場を探しているという声があったため、2歳時の子育ての現状を調査した。

子どもに手をあげたことがあるという女性は全体の55%（288名）。

子どもに手をあげた年齢は2歳が最も多く116名（手を挙げた女性の中の40%）
（P8）

また、2歳以上の子どもを持つ母親で、一番子育てを辛いと感じたのは2歳が最も多く51%の母親が辛かったと答えている。（P26）

今後、1歳半から就園前の親子の支援を重点的に行う必要があると考える。

4：行政の子育て支援サービスについて

各地方自治体が多様な子育て支援サービスを提供しているが、どこまで浸透し、利用されているかを分析。

行政に子育てについて相談をする女性があまりいないのではないかと、情報が古く、硬いというイメージがあるのではないかと、想定していた。

まず、子育ての相談をする相手として、行政の電話相談を選ぶ女性は17名と全体の3%にとどまっている。（P6）

実際に利用したことがある子育て支援サービスは、定期検診が最も多く338名、続いて児童館や子育てひろばで、312名となっている。

電話相談も30名の女性が利用したことがあると答えている（P18）が、P6の結果と比べると、一度利用しても、継続的に利用しようとする女性が少ないことが分かる。

利用後の感想には（P19、20）、知識が古い・知っている内容だった・自分にあったアドバイスではなかった、などが挙げられている。

一方で「行政が提供している」という安心感を感じ、利用している女性も多いことが分かった。

「行政という安心感」と「その親子と時代に合ったアドバイス」が両立できる支援の構築が必要と考える。

5：復職について

産後の女性の社会復帰を進めるための施策が、行政・企業ともに推進されているが、本当に女性たちは復職したいのかを分析。

経済的なゆとりがあれば、復職せずに子育てに専念したい女性も多いのではないかと考えた。

また、復職に対し、企業や政府はキャリアアップに関しての支援を進めているが、女性たちは、キャリアアップより他のことに不安を感じているのではないかと考えた。

まず「心から復職したい」という女性は57%にとどまった。(P15)

つまり、約半数の女性が、できれば復職したくないと考えていた。

復職の理由の4割が、経済的な理由で、夫の年収が280万増えれば、経済的に安心して生活できると答えている。

復職に対しての不安を感じている女性は、不安が少しあるととても不安を合わせて、94%にものぼる。(P17)

不安の内容は「家事と子育て、仕事とすべてできるのか？」が最も多く、219名の女性が不安を感じている。

続いて自分の体力が持つのか・子どもが愛情不足にならないか、という不安を感じている女性が多かった。

今回のアンケートに限っては、キャリアアップに関しての不安は一切聞かれなかった。(P18)

今後、企業側がキャリアアップ以外の女性の不安に寄り添った支援策を構築することが必要と考える。

【4：アンケートのまとめ】

この章では、アンケートの結果と考察を受け、今後必要な子育て支援について、まとめます。

1：産後の女性が、必要とする相談相手について

産後の女性は、「同じ産後の女性という立場のママ友」「子育ての知識を持ちながら、産後の女性の気持ちに共感できる人」に、子育ての悩みなどを話しやすいということが分かった。

現在、マンションの隣りに住んでいる人を知らない、近所に一緒に遊ぶ子どもの友達がいない、など孤独に子育てをしている女性が多いことを踏まえ、地域のつながりを作ること、社会全体で母親を支え、子どもを育てる仕組みが必要であるとする。

また、この結果を受け、今後も、(社)乳幼児子育てサポート協会では、産後の女性が、気持ちを理解し合える同じ立場のママと繋がれる場所を、積極的に提供していく。

具体的には、下記の二点に力を入れていく。

- ・全国の認定教室の拡大 (<http://kodomokosodate.com/aboutapproval>)
- ・同月齢のママが集まり、子育て相談などができるサロンの開講 (新規事業)

また、想定よりも実母に相談するという回答が多く378名。相談後も、気持ちが軽くなった・実践してみようと思ったという、前向きな意見が多かった。

今後、おばあちゃん世代への、時代に合った子育て情報の提供をしていくことが必要となるため、こちらも新規事業として構築する。

2：男性が子育てに関わる時間について

これについては、男性の働き方や子育て支援への提言などを行っている他団体や、企業と連携をし、男性が子育てに参加することが当たり前となる社会作りを目指していく。

具体的な施策は今後の課題とする。

3：2歳（イヤイヤ期）の子育てについて

2歳以上の子どもをもつ母親の多くが、2歳の子育てが辛かったと感じているという結果が出た。

これは、母親として初めて経験する、子どもの「反抗期」にどう対処していいのかわからず、悩む女性が多いにも関わらず、子育て支援策が追いついていないということ。

今後、行政や企業を含め、1歳半から就園前の親子への支援策の充実が必須。

（社）乳幼児子育てサポート協会では、現在、イヤイヤ期のお子さんをお持ちの母親を対象とした講座を全国で開講している。<http://kodomokosodate.com/archives/info/iyaiya-info>

ただ、これだけでは子育て支援としては心もとない為、0歳代から就園前まで継続的に通える子育て支援サービスを構築する（2017年度以内）。

0歳代から継続して通える場所を作ることで、産後の女性・お子さんと講師の信頼関係が深まり、より女性の心に寄り添った支援・声かけが行えるため。

4：行政の子育て支援サービスについて

今後、行政のサービスの利用率と満足率を上げるためには、より、今の子育て環境に合った知識を有し、かつ産後の女性の心に寄り添った対話（会話）ができるスタッフの育成が必須と考える。

当協会では、認定講師に向けて、産後の女性に心から信頼してもらえるコミュニケーション方法について指導をしている。

そのマニュアルを行政や関係団体に提供していく。

5：復職について

復職に対して、キャリアアップ以外の悩みを抱えている現状が明確になったが、女性活躍が謳われる昨今、女性のキャリアアップや、仕事をうまくこなす仕組み作りに目を向ける企業が多いように感じる。

今回のアンケートの結果を踏まえ、キャリアアップ以外の悩みや不安を解消し、産後の女性の活躍を推進するために、全国の当協会認定教室で開講している復職講座を、各企業や関連団体に提案していく。

<http://kodomokosodate.com/hukushoku>

以上

本リリース内容の転載にあたりましては、
「(社) 乳幼児子育てサポート協会調べ」と記載頂けますよう、お願い申し上げます。

本件に関するお問い合わせは、下記までお願い致します。

TEL：06-6415-9425
FAX：06-6415-9425
MAIL：info@kodomokosodate.com

担当：小仁（こに）